

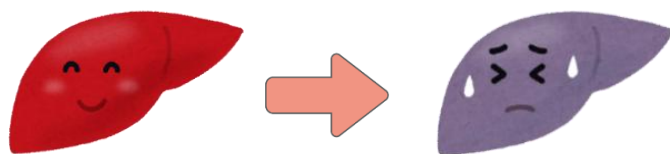
肝線維化とエラストグラフィー検査について

今回は肝臓の変化の一つである“線維化”についてと、それらを調べる事が出来る“エラストグラフィー検査”についてのお話です。

- B型・C型肝炎などのウイルス性肝炎
- 脂肪肝
- 過度の飲酒によるアルコール性肝障害
- 自己免疫性肝炎
- 薬剤性肝障害

これらの状態が長く続くと、肝臓に慢性的な炎症が起こり、線維化が進行していきます。

肝線維化とは、肝臓に炎症や障害が長く続くことで起こる癒痕化（きず）を指します。いわば、肝臓が少しずつ硬くなる変化であり、進行すると肝機能の低下につながります。



肝線維化の初期段階では自覚症状がほとんどありません。

しかし進行すると、さらに肝臓が硬くなり「肝硬変」と呼ばれる状態に至ります。肝硬変になると腹水、黄疸、むくみなどの症状が現れ、肝臓がんのリスクも高まります。

診断には血液検査やCT、MRIなどの画像検査が一般的に用いられますが、当院ではエラストグラフィー検査（腹部エコーの追加検査）により、肝臓の硬さを非侵襲的に測定し、線維化の程度を評価することが可能になっています。腹水が多い場合や強い肥満がある場合には正確に測定できないことがあります。エラストグラフィー検査の流れとしてはベッドで仰向けになり右腕を上げた姿勢で行います。エコー技師の指示に合わせて数秒間息を止めることで、より正確な測定が可能になります。測定は複数回行い、その結果の中央値が最終的な評価として用いられます。



エラストグラフィー検査で異常と言われた場合には、肝線維化が進んでいる可能性があります。早期に異常を発見し、適切な治療や経過観察につなげることが大切です。

検査前の注意点としては、食事の影響を受ける可能性があるため、原則として空腹で受けることが推奨されます。ただし、水分摂取や必要な内服は可能な場合が多いため、事前に医師の指示を確認してください。

エラストグラフィー検査は、体への負担が少なく、短時間で肝臓の硬さを評価できる有用な検査です。気になる方は検査を受けて健康管理に役立てましょう。

臨床検査技師 原田 多聞

ふわふわ！ 梅と大葉のチーズつくね

材料(2人分)

- ・鶏ひき肉 150 g
- ・はんぺん 1 枚
- ・大葉 3～4 枚
- ・梅干し 1 個
- ・チーズ 20 g
- ・サラダ油 適量

【A】

- ・酒、片栗粉 各大さじ 1
- ・塩コショウ 少々
- ・にんにく チューブ 2cm

【B】

- ・みりん、醤油 各大さじ 1
- ・砂糖 小さじ 2



大葉には、**βカロテン**が多く含まれます。
βカロテンはビタミン A に変換され、
目や皮膚の健康に役立ちます。

管理栄養士 藤井奈乃子

作り方

- ①種を取った梅干しと大葉を刻む。
- ②ボウルに①とはんぺん、鶏ひき肉、チーズ、A のすべてを加えて揉みこむ。
- ③手に油をつけ、②を 8 等分に丸めて、中火で焼く。
- ④片面に焼き色がついたら上下を返し、蓋をして弱火で 4 ～ 5 分蒸し焼きする。
- ⑤蓋を取り、B を加え中火にし、両面にかからめて完成。

☆ B のたれなしで、はんぺんなどの塩味だけでもおいしく食べられます。

枚方公済病院 理念

医療への貢献と奉仕

基本方針

地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
強く、優しく、頼れる病院を目指す。

